



「地域学習のススメ」

「生活創造工房」 大野 加恵

留学生が日本に来て、日本人が日本の歴史や文化のことについて知らないことに驚くという話を良く聞く。日本に興味を持ち、それなりに勉学に励んでいた留学生であるから、日本の歴史や文化に関する知識が豊富なのは分かるが、全く太刀打ちできない日本人も少々情けないような気がする。しかし、日本人と留学生の関係を高知県在住者と観光客の関係に変えてみた時、私は観光客に高知県のことを十分説明できるだけの知識と教養を持っているのだろうか…と、大いに不安になる。

私が子どもの頃は学校の社会科の授業で教わるのは、オールジャパンの歴史や文化についてであり、高知県や住んでいる校区内等の歴史や文化について教わる時間はそう多くはなかったと記憶している。小学3～4年生の頃、「高知市の暮らし」という社会科副読本を使って住んでいる自治体のことについて学んだ程度である。私の記憶がなくなっているだけかもしれないが、それ以前も、それ以降も自分達が暮らしている地域のことについて学校で教わった記憶がほとんどない。

恐らく、私が子どもの頃と今もそう変わりがないだろうと想像する。大学生と話をする機会が時々あるが、高知で生まれ育っていても高知のことを良く知らないという人は多い。県内にどういった市町村があるのかすらも知らない、自宅の近所にある史跡についての説明もできない。新聞を読んでいないから…と彼らは言うが、この一言で片付けられないような気がしている。

恐らく、地域のことに目を向ける癖がついていないからではないだろうか。

自分が暮らしている地域のことを知らなくても、多くの人は日々の生活には困らない。しかし、このままで良いのか…。ここ十年程、考えることが多い。自分達が暮らしている地域のことを知らずして地域の将来像が描けるのか…地域づくりなどに多少なりとも関わりを持っている仕事柄、気になってくる。年齢が下がるに従って、知らない人が多いのは仕方がないのかもしれないが、小学生の親世代でも意外に知らない現実を知るにつけて、さて…、どうにかならないものかと考えていた。

そんな折、たまたま「土佐山の暮らし」という地域学習の副読本を手にする機会があった。「○○○の暮らし」という副読本を手にするのは子どもの頃以来で、妙に嬉しく、隅から隅まで読んでみた。小学3～4年生向けに書かれてはいるが、大人の私が読んでも「なるほど、そうなのか…」と発見がたくさん。地域を学ぶ第一歩としては最適である。これは、大人が読んでも十分役立つし面白い。情報通信ネットワークで誰も



弘瀬おなばれ。土佐山村弘瀬のおなばれの若いし。派手なメイクと衣装。この格好で棒踊りもする。



高川早飯食(その1)。土佐山村高川の早飯食い開始前の神事。
小さな子からお年寄りまで神妙に神様にお祈り。

が利用できるようにしたら良いのではないか。そう考えた私は、この「土佐山のくらし」をデジタル化したいと考え、関係者に話を持ちかけた。

既に平成17年1月1日から土佐山村は高知市と合併することが決まっていた。そのため、「土佐山のくらし」そのものがなくなってしまう前にデジタル化してサーバ内にこれらの情報を残しておくことは意味あることと教育委員会の理解や、高知県情報生活維新協議会の助成も得られた。そして、「土佐山のくらし」のデジタル副読本化を合併前の平成16年に行うことができた。少し、デジタル副読本作成時のことを具体的に書かせて頂く。

副読本のデジタル化にあたっては、単に紙媒体のものをデジタル化するだけでは、デジタル化の意義が少ないと考え、地域の青年団や高齢者の協力を得て、地域の神祭を(高川の早飯食い、弘瀬のおなばれと神相撲)をビデオに収めデジタル副読本の一部とした。これで一年に一度の神祭の様子をいつでも見るできるようになった。デジタル副読本の動画を事前に見て、次の神祭に足を運び、見ることや体験することもできる。土佐山地区の子ども以外も、通信ネットワークを通じてデジタル副読本を見ることができるので、他地域の子どもの地域学習にも役立てることができる。紙媒体の「土佐山のくらし」では小さな1枚の写真しかなかったが、これに数分の動画が加わることで、たく

さんの情報を伝えることができるようになった。例えば、写真では神祭の所作や掛け声などはわからないが動画では十分伝えることができる。当日、私は高川の早飯食いしか直接見るができなかったが、後から動画でみた弘瀬の神祭で行われる神相撲は「土佐山のくらし」という副読本にはなく、このように変わった行事なら、一度、実際に見てみたいと思った。

小学3~4年生が使用する「〇〇〇のくらし」という副読本は、ほとんどの教育委員会で作られている。市町村合併後は、これまで単独で作成されていた「〇〇〇のくらし」は、新たな市町村で1つの「〇〇〇のくらし」となるが、合併前と同様のページ数が割かれて地域のことが書かれる訳ではない。土佐山村は高知市と合併したが、新しい「高知市のくらし」では一地区としての扱いとなり、必然的に情報量は以前の単独であった「土佐山のくらし」と比べれば圧倒的に少ない。せっかくの地域を学ぶための良い教材であったにも関わらず、市町村合併によって情報が薄くなっているのである。

市町村合併によって地域学習教材が失われていくことは惜しいという気持ちと、「〇〇〇のくらし」という副読本は誰が読んでも分かりやすく、誰もが気軽に始められる地域学習の教材として最適という理由で、高知県立図書館や県生涯学習課の方には、これら副読本を地域資料として収集し、貸し出しができるよ



高川早飯食(その2)。土佐山村高川の早飯食いの膳。
とがずに炊いたご飯を榎の葉にのせた味噌と米のとぎ汁の湯で食べる。

うにして欲しいというお願いをしている。これに加えて、デジタル副読本の仕組みが高知県下の各市町村に導入されれば、地域学習が非常にしやすい環境が整う。何歳になっても地域のことを学びたいと思えば、情報通信ネットワークにつながっている場所から、デジタル副読本サーバにアクセスすれば良いのである。先に地域のことに目を向ける癖がついていないと書いたが、気になっても「後で調べよう」と思って忘れていたという人もいるのではないだろうか。気軽に調べることができるのは却って良くないという声も聞こえてきそうだが、きっかけとしてはふと気になったことをすぐに調べることができれば、地域のことに目を向けるようになるのではないだろうか…等とも考える。これに加えて、自分達の地域学習として、ビデオを趣味とする人達が地域の祭りや行事、手仕事、方言などを録画・録音し、互いの地域学習教材として提供できる仕組みができればと考えている。この仕組みが

実現できれば、地域の人々の手作教材で、増殖するデジタル副読本となる。子ども達のためだけではない、自分達のための自分達の手による地域学習教材作成の仕組みとなる。

このように、地域内で自分達の地域について学ぶ仕組みを構築したいというのが私のささやかな野望である。自分達の暮らす地域のことを知らないと、自分自身を育ててくれている地域に誇りももてないと考える。他県に行って胸をはって出身地のことを説明できる、地域住民が観光ガイドのように歴史や史跡について説明できる、といったようになれば素敵だと思う。地域の歴史や過去を踏襲しようと言うつもりはない。しかし、過去から学ぶことは多々ある。その上で現在の状況を知ること、未来像をもっと具体的に描くことができると考える。東京から約十年前にUターンして、遅まきながら気が付いた地域の歴史や自然の大切さである。

昔ばなし研究会

2月例会

「昔ばなし研究会」は「昔話が語る子どもの姿」を読み終え、この2月の例会をもって発足1年を迎えます。その記念として、異文化交流をしてみたいと思い二人のALTの先生に参加していただき、それぞれの国の昔話を日本語と英語を交えながら話してもらい、楽しいひとときをすごしたいと思っています。昔話に興味のある方は、ぜひご参加ください。

日時 平成18年2月4日(土) 午前10時～正午
場所 〒780-8031 高知市大原町132番地
教育センター分館 南棟2階 中講義室(駐車場有)
参加費 無料
申込 NPO高知県生涯学習支援センターまで、
電話または、FAXにてご連絡ください。



第33回 高知県こども英語弁論大会

主 催

NPO高知県生涯学習支援センター

後 援

高知県、高知市、高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、読売新聞高知支局、朝日新聞高知支局、毎日新聞高知支、NHK高知放送局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知ロータリークラブ

高知県下の子ども達に国際人としての感覚を身につけ、将来国際社会で活躍できる人材を育てる一助ともなればとの主旨で、国際語である英語の弁論大会を開催します。

この大会は、幼児の部では高知県知事杯、小学校低学年の部では高知ロータリークラブ会長杯、そして小学校高学年の部では高知市長杯が、それぞれの部の優勝者に贈られます。また弁論の形式は、与えられた課題を暗誦して発表するレシテーション形式の「課題弁論」と自由なタイトルで自作して発表していただく「自由弁論」とがあり、それぞれ年令・学年に関係なく最優秀者に龍馬杯とジョン万杯が贈られます。さらに幼児、小学校低学年、高学年の三部合同の熱演賞もあります。

大会日時 平成18年3月21日(火・祝日)

開 場 午後12時30分

開 会 午後1時

※参加者多数の場合時間変更有:幼児の部
を開場午前10時・開会午前10時30分

大会会場 高知県教育センター分館 南棟1階 大講義室
(高知市大原町132番地 教育センター分館内)
3歳以上、小学6年生まで。
(高知県在住の児童)

参加資格 ①それぞれ弁論の初めに英語にて、論題、
氏名、所属(幼稚園又は保育園名又は学
校名)、年令(又は学年)を述べること。

弁論内容 ②課題弁論(Recitation)又は、自由弁論
(Public Speaking)とする。

③課題弁論は、幼児の部、小学校低学年の
部(1~3年)、高学年の部(4~6年)の3
部に分かれ、主催者より出題される暗誦課
題のうち1つを選び復誦するものとする。

④自由弁論は、子どもの生活に密着した
題材で未発表のものに限る。印刷、販
売されている既製のものからの抜粋等
は認められない。

3分前後、5分以内とする。英語指導者等の
英文作成は認められる。

申込み期間 平成17年12月19日(月)より

平成18年3月3日(金)まで

申込み方法 申込書と参加費用を当センターへお持ちい
ただくか、現金書留に、申込書と共に参加費
用を同封の上期日(3日)必着で郵送下さい。
なお暗誦課題郵送希望の方は、100円切手
を貼った返信用封筒を同封して下さい。

〒780-8031 高知市大原町132番
教育センター分館 南棟2階
NPO高知県生涯学習支援センター
こども英語弁論大会係

参加費 3,000円 【当日、児童は上履き持参。】

問合せ NPO高知県生涯学習支援センター

TEL.088-833-0022

FAX.088-833-0023



発行 2005年10月6日

NPO高知県生涯学習支援センター(KOLEC)

〒780-8031

高知市大原町132番地(教育センター分館内)

電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023

KOLEC 電話進路相談の電話 088-833-0086

電子メール info@kolec.jp

URL http://www.kolec.jp

発行人 理事長 山本晉平

編集 NPO KOLEC編集室/印刷 中島出版印刷

